



自給自足物語（その1にわとり）



ゆめ子は東京の浅草の下町に生まれた。時は終戦の5年前。

家の周りが真っ赤に焼けて、
防災頭巾をかぶって、誰かの腕に抱かれているゆめ子。

それから時は流れて、乙女に成長したゆめ子の毎日は？

平成13年10月4日記

ここは茨城県の大洋村。既に越して11年が経ち、今日は2002年1月1日。

窓辺にデジカメを置いて小鳥の撮影に明け暮れした。

小さな黄色のメジロ、赤いくちばしがなんとも言えず可愛い。

野ばらの実を食べにくるメジロ、

それを自分のエリアを主張する身体の高いヒヨドリが追い払っている
幾度となく撮影に失敗。

結局はヒヨドリが分捕ってしまった。

あの小さなメジロは何処へ行ってしまったのだろうか。

2002年1月1日記



2002年4月7日我が家にヒヨコ(名古屋コーチン)が同居した。
メス3羽(うわ〜!なんと小さくて可愛い!)

それから一ヶ月間彼らの会話を記録した。

名前は”ピヨコ””コメコ””ピヨミ”3羽ともメス。

ダンボールの中におがくずを挽き、その上にあんかを置き、常に35度位を保つ
寒さには非常に弱いそうである。

”どこに来たの””ここはどこなの””ああ!寒いわ”

二週間ほどしてピヨミが死んだ。とっても小さくて頼りない。

暖かい日には外へ出て、すぎなの葉を良く食べた。

ピヨミのうんこは水だった。下痢をしていたのである。

家族一同、心を痛めた。

2002年4月15日記

その後オス一羽とメス一羽が入居した。更に小さい！育つのが不安。
メスは黒い色をしている。メイドインーアメリカだそうである。名前はクロコ。
その元気で活発なことには驚かされる。

メスのクロコは元気、その活発さその陽気さには、家族一同大笑い。
鳥のように高いところから羽ばたきながら遠距離を飛んでいく。
エッ！アレ鶏なの？しかし、それとは対照的にオスのピヨシは弱々しかった。

2002年6月10日記

ある日、ピヨシがいなくなった。唯一のオスのピヨシがいなくなった。
家族一同大ショック。子供のように可愛がって育ててきたから。特にピヨシは弱かったから。
猫か犬にやられたもののがっかりしていたら、夕方、ヒョイと庭に目をやったら鶏が一羽立っていた。

鶏小屋に入れたはずなのにと一瞬戸惑ったが、それは紛れもなくピヨシだった。
既に4時間以上はたっていると思われる夕暮れ時に近い出来事だった。
"うわあ！ピヨシが帰ってきた。"と大声で叫んだら、家族全員出てきて大感激。忘れられない一コマになった。

2002年7月15日記



8月22日待ちに待った待望の卵が生まれた。記念すべき日である。
3月の終わりに同居したひよこが5ヶ月目で卵を産んだ。

赤い小さなS玉なのでリーダー格の名古屋コーチンのピヨコが生んだものと推察される。

いよいよ～自給自足の始まりです！！

8月22日記